

神経精神科学

| | | | |
|--------------|---|--------|------------|
| 責任者・コーディネーター | 神経精神科学講座 酒井 明夫 教授 | | |
| 担当講座・学科(分野) | 神経精神科学講座 | | |
| 担当教員 | 鈴木 廣子 非常勤講師、智田 文徳 非常勤講師、及川 暁 非常勤講師、大塚 耕太郎 講師、八木 淳子 講師、星 克仁 講師、吉田 智之 助教、山家 健仁 助教、遠藤 仁 助教、福本 健太郎 助教、工藤 薫 助教、佐藤 瑠美子 助教（任期付）、三條 克巳 特命講師 | | |
| 対象学年 | 4 | 区分・時間数 | 講義 25.5 時間 |
| 期間 | 前期 | | |

・学習方針（講義概要等）

ICD-10 分類に従い、各精神障害の内容と治療法についてそれぞれの障害の専門家が講義を担当する。講義内容では精神障害に関する最新の知識を伝達するように努め、bio-psycho-social いずれも考慮した疾患理解を促す。

シラバスに記載されている次回の授業内容を確認し、教科書・レジメを用いて事前学修（予習・復習）を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は最低 30 分を要する。本内容は全授業に対して該当するものとする。

・教育成果（アウトカム）

精神医学は、生物学、哲学、心理学、経済、歴史など幅広い領域にまたがる学問体系である。その全体像を理解するためには、精神と身体との関連性をつねに頭に入れながら、精神機能の障害の原因、本態、経過、転帰を解明し、それらへの対処を考案しようとする視点を身につける必要がある。

・到達目標（SBO）

1. 精神医学的症状に関して、それらの内容と心理学的構造を説明できる。
2. 患者の外観と行動・振る舞いについて、それらを診断の補助とすることができる。
3. 主要な精神疾患の概念について説明できる。
4. 精神保健福祉法について内容を把握し、個々の精神医療におけるその運用を説明できる。
5. 薬物療法と精神医療法の適用について説明できる。

6. 児童・青年期精神医学の主要な課題について説明できる。
7. 脳に関する神経生物学の基礎に関して説明することができる。
8. 精神医学的倫理に関して主要な問題点とそれへの対処を提示できる。

・ 講義日程

(矢) 西 104 1-D 講義室

【講義】

| 月日 | 曜日 | 時限 | 講座(学科) | 担当教員 | 講義内容 |
|------|----|----|----------|-----------------|------------------------|
| 4/2 | 木 | 3 | 神経精神科学講座 | 遠藤 仁 助教 | 精神科症状論 I |
| 4/6 | 月 | 2 | 神経精神科学講座 | 福本 健太郎 助教 | 精神科症状論 II |
| 4/9 | 木 | 3 | 神経精神科学講座 | 吉田 智之 助教 | 老年精神医学 (F0) |
| 4/13 | 月 | 1 | 神経精神科学講座 | 智田 文徳 非常勤講師 | 神経症性・ストレス関連性障害 I (F4) |
| 4/13 | 月 | 2 | 神経精神科学講座 | 智田 文徳 非常勤講師 | 神経症性・ストレス関連性障害 II (F4) |
| 4/20 | 月 | 1 | 神経精神科学講座 | 大塚 耕太郎 講師 | 統合失調症 I (F2) |
| 4/20 | 月 | 2 | 神経精神科学講座 | 大塚 耕太郎 講師 | 統合失調症 II (F2) |
| 4/27 | 月 | 2 | 神経精神科学講座 | 佐藤 瑠美子 助教 (任期付) | 反応性精神障害 |
| 5/11 | 月 | 4 | 神経精神科学講座 | 鈴木 廣子 非常勤講師 | 児童・青年期精神障害(F9) |
| 5/25 | 月 | 3 | 神経精神科学講座 | 工藤 薫 助教 | 器質性精神障害 (F0) |
| 5/25 | 月 | 4 | 神経精神科学講座 | 及川 暁 非常勤講師 | 精神保健福祉法 |
| 5/28 | 木 | 1 | 神経精神科学講座 | 山家 健仁 助教 | 気分障害(F3) |
| 6/1 | 月 | 3 | 神経精神科学講座 | 星 克仁 講師 | 知的障害・パーソナリティ障害(F6,7) |

| | | | | | |
|------|---|---|----------------------------------|------------|-----------------|
| 6/1 | 月 | 4 | 神経精神科学講座 | 工藤 薫 助教 | アルコール症と薬物依存(F1) |
| 6/8 | 月 | 4 | いわて東北メディカル・メガバンク機構地域連携・医療情報ICT部門 | 三條 克巳 特命講師 | 精神科的薬物療法 |
| 6/19 | 金 | 3 | 神経精神科学講座 | 山家 健仁 助教 | 精神療法と認知行動療法 |
| 6/19 | 金 | 4 | 神経精神科学講座 | 八木 淳子 講師 | 災害児童精神医学概論 |

・教科書・参考書等

教：教科書 参：参考書 推：推薦図書

| | 書籍名 | 著者名 | 発行所 | 発行年 |
|---|-------------------------------------|-------------------------------------|------|------|
| 教 | 標準精神医学 5 版 | 野村総一郎、樋口輝彦、尾崎紀夫 編 | 医学書院 | 2015 |
| 参 | ICD-10 精神および行動の障害：臨床記述と診断ガイドライン 新訂版 | World Health Organization 編、融道男 他監訳 | 医学書院 | 2005 |
| 参 | NEW 精神医学 改訂 2 版 | 上島国利、丹羽真一 編 | 南江堂 | 2008 |
| 推 | 臨床精神医学講座 全 38 巻 | 松下正明 総編集 | 中山書店 | 1997 |

・成績評価方法

試験成績により評価する。

・特記事項・その他

1. 講義

(1) 系統講義

精神症状、精神疾患について系統的に講義する。

1) 精神症状総論：知覚障害、思考障害、記憶障害、知能障害、感情障害、意志障害、意識障害、自我意識障害

2) 精神疾患各論：総合失調症、気分障害、精神遅滞、人格障害、進行麻痺、症状精神病、中毒精神病、痴呆性疾患、老年精神病、器質性精神病、神経症

(2) 臨床講義

1) 系統講義で示した精神疾患について、随時臨床例を呈示し、その診断、治療、社会復帰、予防について講義する。

2) コンサルテーション・リエゾン精神医学、児童・青年期精神医学、精神保健福祉法の概説を行う。

2. その他

神経学、社会精神医学、精神医学史、治療学、精神保健についても随時補足講義し、特に精神保健はそのなかでも重点的に講義する。

・授業に使用する機器・器具と使用目的

| 使用区分 | 機器・器具の名称 | 台数 | 使用目的 |
|------|----------------------------|----|--------|
| | パソコンー式 Precision37 | 1 | 講義資料作成 |
| | カラーレーザープリンター式 IPSIO C×3000 | 1 | 講義資料作成 |